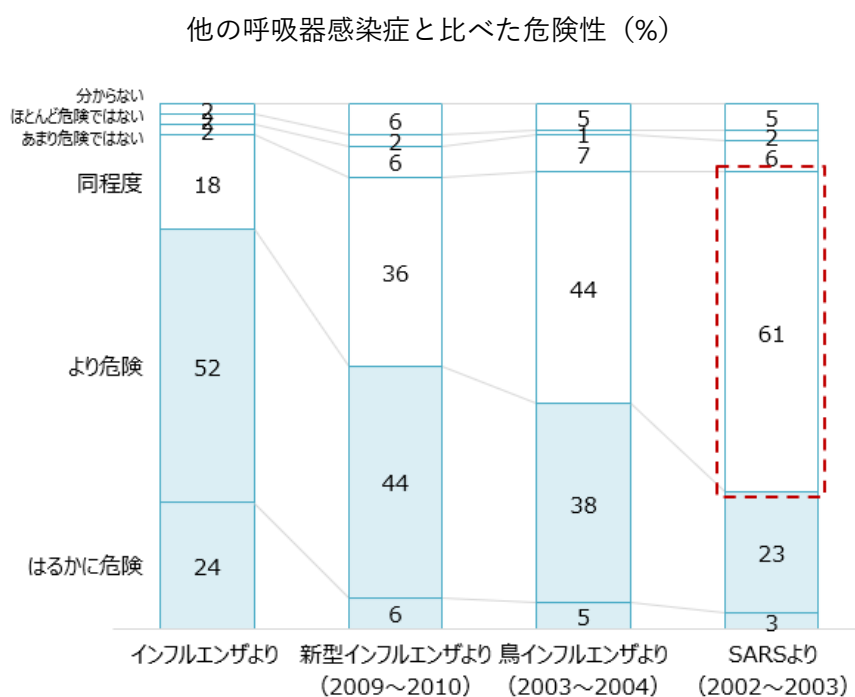


コロナウイルス対応でベトナム人は政府を支持

数か月にわたり、ベトナムでもコロナウイルスが不動のトップニュースとなっている。今回はやや遡るが、弊社で2月上旬に行った緊急調査（オンラインで全国約180名が回答）を紹介する。当時強い危機感を持っていたベトナムでは、2月初めの旧正月休暇明けに際しての学校再開2週間延長、中国からの入国制限など、強い措置をとったところであった。コロナウイルスの危険度を聞いたところ、2009年の新型インフルエンザ以上と考える人が50%に達し、ベトナムで大きな被害を出し、人々の記憶に残るSARSと同程度と考える人も61%と大勢を占めた。市民から見た警戒レベルが高かったことが分かる。



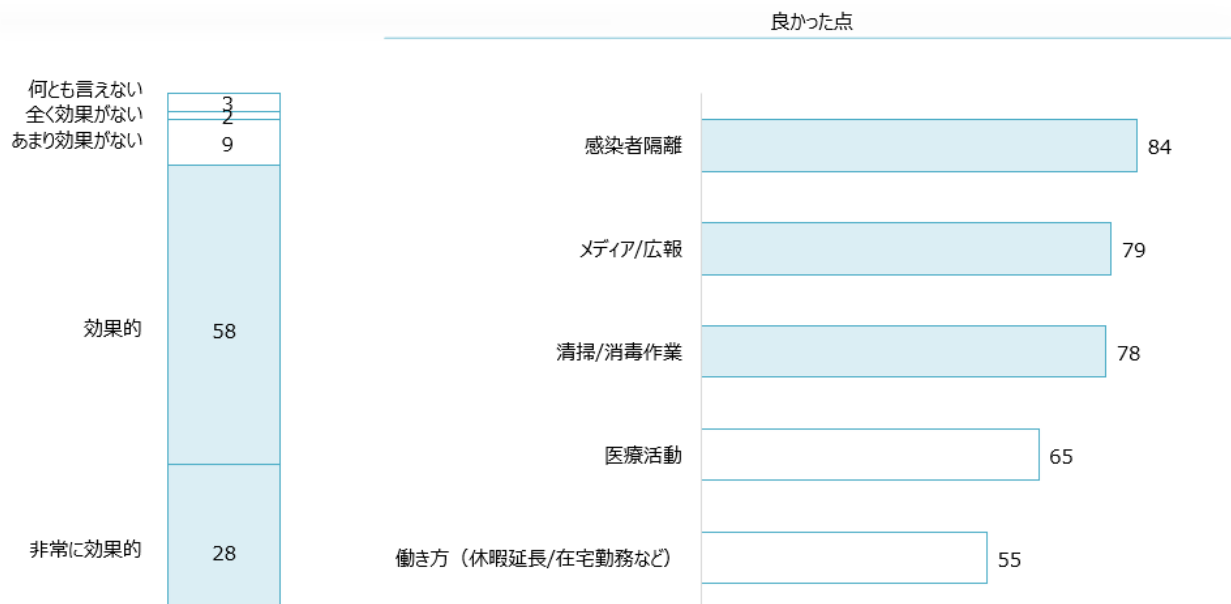
資料：B&Company

個人生活への影響では80%が悪影響を受けているとしている。「外出できないことの余暇への影響（自由回答からの集計で回答者の25%）」、「生活の混乱（同22%）」、「仕事や勉強の遅れ（同21%）」などの他、「不安や恐れ（同22%）」など精神面を挙げる回答者が多かった。「仕事や勉強の遅れ」を気にしたのは女性28%、男性13%と差がついたのはベトナムならではと言える。一方で、「収入減少」については第5位（同8%）と、影響はこの時期まだ限定的であったと思われる。

多国間比較調査で、コロナウイルスへの政府対応に対する評価（Dalia Research：3月下旬、45か国）を見ると、「政府対応が不十分」との回答が多かったのはタイ（79%）、チリ（76%）、スペイン（66%）、日本（64%）、フランス（64%）の順となっており、最も少なかったのがベトナム（13%）であった。「適切」との回答もベトナム（62%）が最高であった。弊社調査でも政府対応への評価を聞いたところ、さらに高評価で、9割近くが「効果的」、「非常に効果的」として支持している。隔離や消毒に

関しては、2月2日までにハノイ市の3,000校で消毒剤を散布するなど、断固とした措置を取ったことが良かったようだ。政府広報についても79%が「良かった」としていて、フェイクニュースに対して2月7日までに21件を特定、9件に罰金を科したことが評価された。政府からの頻繁な情報発信も高評価の要因と思われ、社会主義体制のベトナムとしては珍しいことと言える。

政府対応への評価 (%)



資料：B&Company

政府への要望も聞いたところ、社会の混乱で幅広い課題が発生していることを覗える意見が多く挙がった。「インターンシップでの単位が取得できず卒業が遅れる (20代学生)」、「自宅待機の子どもの世話をする時間の調整が難しい (30代女性会社員)」、「家族のマスクや薬を購入するための出費が増えた。一部商品の価格が高騰 (30代男性会社員)」など、生活への影響緩和が訴えられている。

感染者数は4省市の16人で止まり、3月上旬まで約1か月新規が出なかった。感染状況、政府への評価はタイミング次第で変わっていくが、当初対応は市民からも評価され成功であった。

参照：

1. <https://www.b-company.jp/ja/2020/04/01/covid-19/>

